

重点取組分野	令和 元 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①基礎・基本を重視しながら、身に付けた知識や技能を使って思考力・判断力・表現力等をはたらかせる授業を行う。 ②「チーム本牧中」として授業改善を行うためのシステムを開発する。	①チームティーチングや少人数指導、グループワークなどを通して、基礎・基本を重視しながら、身に付けた知識や技能を発揮できる機会をもつことができた。 ②校内の授業研究を通して授業改善のための研修を行ったが、システム開発までは到達していない。	
生徒指導	①教職員と生徒間の日常的なコミュニケーションにおいて「傾聴」と「共感」を大切にしている。 ②生徒の状況を正確に把握し、情報共有しながら指導の方向性を打ち出していく。 ③「チーム本牧中」として全校体制で生徒指導を行う。	①日ごろの学校生活の中で、生徒とのコミュニケーションを積極的にとることができた。 ②他の教員との情報共有などが不十分な部分が見られたので、来年度はより密な情報共有の方法を確立し、教職員全体での指導を行ってきたい。	
特別支援教育	①特別支援教育の理解を深めるために専門家による研修会を実施する。 ②特別支援教室を組織的に運営するために特別支援コーディネーター会議を充実させる。 ③特別支援教育の推進を図るために保護者や他機関と連携し生徒の状況把握と理解に努める。	①外部講師を招き、専門的な立場から生徒への支援方法を聞けることができた。 ②特別支援教育校内委員会を月1回設け、密な情報交換等を行い、教職員の共通理解に努めた。 ③外部関係機関とも連携を図り、学習支援や環境整備等を行った。	
豊かな心	①道徳教育の充実を図るために、道徳の授業づくりや指導法、評価について研究を進める。 ②個別支援学級の生徒や目立たないが努力をしている生徒を全校生徒に紹介する機会をもうける。 ③教職員と生徒の日常のコミュニケーションを重視し、共感や共通体験を重ねていく。	①道徳の授業づくりには工夫が見られたが、計画性や見通しが求められる。 ②個別支援級の生徒の表彰を全体の前で行った。 ③教職員と生徒とのコミュニケーションが充実し、共感性が高まった部分もあるが、生徒への対応に課題が残った場面もあった。	
健やかな体	①基本的な生活習慣の確立をめざし、健康教育の充実のために「保健だより」等で広報を行う。 ②食生活への意識を高め、「ハマ弁」を推奨していく。 ③運動やスポーツへの関心を高め、個性を生かした取り組みができるように支援していく。	①保健便りや食育便り等で促したが、「食事・運動・睡眠」をバランス良くといった点で不十分であった。 ②ハマ弁の積極的な広報によって、昨年度より喫食率が大幅に上昇した。 ③休憩時間等では教職員と共に積極的に体を動かすことを楽しんでいる。	
防災学習	①津波や高潮に関する情報を共有し、自分事として防災を考える機会を設定する。 ②関係機関や地域の方々の協力を得ながら具体的な取り組みにつなげていく。	①グループワークを通して非常持ち出し袋の中身について話し合い、完成した非常持ち出し袋のプレゼンテーションを行った。 ②地域防災拠点への訪問及びインタビューを通して、地域防災拠点の役割や被災時に中学生ができることについて考えることができた。	
地域連携	①地域と学校が連携し、持続可能な教育活動を行うために地域コーディネーターの配置を検討する。 ②職場体験学習等の更なる充実を目指し、地域との連携を推進する。	①地域コーディネーターの配置を検討し、来年度から配置に向けての準備に入ることができた。 ②職員が地域行事に参加したり、管理職とPTAのOBがつながったりしながら、地域との連携を深めることができた。	
キャリア教育	①職業講話(1年次)、職場体験(2年次)、進路学習(3年次)のつながりを意識し、キャリア教育を構造的に捉える。 ②あらゆる教育活動を通じて自己理解を深めながら、自らの特徴や個性に気づかせる。	①各学年の取り組みを再度検討し、トータルでキャリア教育を捉える視点を共有化できた。 ②キャリア教育と自己理解や個性の伸長に結び付ける具体的な取組には課題が残った。	
いじめへの対応	①研修会や管理職による情報発信等により、いじめに対する教職員の感度を高める。 ②毎朝の生徒指導ミーティングを活用し、適時性を重視したいじめ防止対策委員会を実施する。 ③職員間のコミュニケーションを活性化させ、スピーディな情報交換ができる文化を醸成する。	①いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、委員会内での情報共有はできたが、全教職員への周知が不十分であったと感じる。生徒指導と連携し、生徒の状況把握と共有を確実にできるように行っている。 ②指導部の活性化と組織化には課題が残った。	
人材育成・組織運営(働き方改革)	①教職員の「主体的な学びの場」をメンターチームと関連させながら創造していく。 ②持続可能な授業改善システムを構築し、教職員相互の学びを活性化させる。 ③定時退勤日を設定するとともに、会議の効率化等を図ることにより時間的余裕を生み出す。	①メンターチームの成立までは至らなかった。 ②授業改善への取組みは一定程度進んだ。 ③定時退勤日は定着してきた。会議の手法等の工夫は継続して行う。	
ブロック内評価後の気づき	・学力・学習状況調査の結果を2中4小ブロックの教務主任及び管理職で一堂に会して比較・検討を行った。そこで見てきたのは、小学校の時には高かった自尊感情や自己肯定感に関する項目の数値が、中学校では低下していることである。成長段階に合わせたキャリア教育や授業や学校行事での主体性を引き出す関りが課題である。 ・学力面では小学校段階から課題がある。特に算数、数学については小中連携した学力向上プランが必要である。		
学校関係者評価	・学校全体の雰囲気は活気があり、職員と生徒の関係性も良好である。 ・生徒の生活状況も落ち着いており、安定した教育活動が行われている。 ・学校として地域とのつながりを更に深め、地域の材を活用した教育活動を進めていってほしい。		

中期取組目標振り返り	・多様性と柔軟性を大切にしなが、特別支援教室の運営や教育活動が充実してきている。また、授業においても生徒が考え、発言する機会が増加してきている。 ・コミュニケーションの基本である「あいさつ」については、更に学校全体で取り組む必要がある。 ・安全、安心な学校環境づくりはソフト面(コミュニケーション面)とハード面(施設面)ともに進展しつつある。 ・生徒の自尊感情や自己有用感の向上には、学校全体での取組が必要であるが、課題が残った。
------------	--

重点取組分野	令和 2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	b1		
生徒指導	b2		
特別支援教育	b3		
豊かな心	b4		
健やかな体	b5		
防災学習	b6		
地域連携	b7		
キャリア教育	b8		
いじめへの対応	b9		
人材育成・組織運営(働き方改革)	b10		
ブロック内評価後の気づき			
学校関係者評価			

中期取組目標振り返り	
------------	--

重点取組分野	令和 3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	c1		
生徒指導	c2		
特別支援教育	c3		
豊かな心	c4		
健やかな体	c5		
防災学習	c6		
地域連携	c7		
キャリア教育	c8		
いじめへの対応	c9		
人材育成・組織運営(働き方改革)	c10		
ブロック内評価後の気づき			
学校関係者評価			

中期取組目標振り返り	
------------	--